



禮容筆釋
六

1264
6



門仁
第 1264
卷 6



礼容を辨せしむ

書禮 三六、非と六事

是書礼の様くありてあるは松の居たりしは女くひの宗
或るはとそあるは月事ありてあるは書礼は形なきこと
ありて是は礼の初は唯為用のありてありて民間の
より便覧はゆるお家あるは是くは儀をわたりてある
なりとてかゝるなりては書礼は三寸六分非とありあり
お又のなりめは書礼より儀は端より三寸六分松は儀を
より目付はる三寸六分はりのを不は名と月日のあり三寸
六分は儀三寸六分といつり儀の大小を極よりありあり
へは儀はとて年過下くは法式は月の儀をてききり
親など人のまかたりとされたる名と目付のくへをば同業

諸礼大成前集

卷六

十一

連続字のり

殿様侯御枝姫克加振の連流の名字と前此のり
せりて此のりよと切てかきり
何と身縁ともは格段ははく知べし
月か否を以て取人の名字格名法名或は家名月或は
國名のおおとくまんぞの名字と切てかきり

聖徳太子

聖徳太子の書法少くもむすむす
する如ハ二のりめかまり
も書法少くも二のりめかまり
一才二のりのかまり
すりハ應愛し書院のおおとく

そのりよは格段としてそのりよは感ずるゆゑ
のゆゑ或はしよはさうて半云換中殿様御
中會見換るの換あし
の取是おれ字法又切てかきり
又さきこれゆ方のゆゑはさる
おれはあささしと
族のなまか
と此場を
關字

けり印のぬ人むらう海をまきまふわらど久中多き書つたねむ
 是の教の礼とわたりとらひあふは盛業健世清字も此の意也
 かくぬらひともなればくま海をわらぬ一き清字に極めく世法
 守れ上ひりどきありむ佐友の人よかりればもつれんこと
 か後のもうばくよりハ法外の文法かまりきり字子守る事言ふ
 後よあつたわらぬを竜もつりし書りていかにいかに人
 きりあふはたのむ事言ふ教のさハ世を色をわらぬあふは海か
 かんをもわらぬあふはたのむ事言ふかむに極上世の極清健も同業
 六世清法く下業の極清世も三世わらぬのさく又よき事言ふ誠恐
 誠惶謹言し書りたどりし是も當代のさるる事言ふもか後の例
 きりあふはたのむ事言ふあふはたのむ事言ふもか後の例
 を下に秘法下の子族下の子族とさるる事言ふもか後の例
 子族下の子族とさるる事言ふもか後の例

家親被友のぬま唯法くくけお清世言さるる事言ふもか後の例
 かりあふはたのむ事言ふあふはたのむ事言ふもか後の例
 同業たのむ事言ふあふはたのむ事言ふもか後の例
 わらぬもくわらぬのむかをわらぬもくわらぬのむかをわらぬ
 とさるる事言ふもか後の例
 さるる事言ふもか後の例
 ははははははのむさ清法もさるる事言ふもか後の例
 の當代のもか後の例もさるる事言ふもか後の例
 のどもか後ともさるる事言ふもか後の例
 当世も備法かむはははの代りも清の人もわらぬもか後の例
 せざる事言ふもか後の例もさるる事言ふもか後の例
 かりあふはたのむ事言ふあふはたのむ事言ふもか後の例
 かりあふはたのむ事言ふあふはたのむ事言ふもか後の例

ありしもの形がねたに止りてのよかたさうびつとよかたさうて
故実証^{まこと}なるすむか^{まこと}なるか人を用ふたらん^{まこと}なるか
事の^{まこと}ゆかりを唯世の^{まこと}事なるゆかたさうてさうびつた
すむか^{まこと}なるか

振付く

振付ハ振礼^{まこと}ありかりと^{まこと}なるは^{まこと}なるは^{まこと}なるは^{まこと}なるは
よ用^{まこと}なるの^{まこと}ゆかり^{まこと}なるは^{まこと}なるは^{まこと}なるは^{まこと}なるは
く^{まこと}なる中^{まこと}なるく^{まこと}なる中^{まこと}なるく^{まこと}なる中^{まこと}なるく^{まこと}なる中
細^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
め^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
ゆ^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
振^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる

ありしもの形がねたに止りてのよかたさうびつとよかたさうて

上書き

つひに封^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
う^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
の^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
ち^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
同^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる

振書

ありしもの形がねたに止りてのよかたさうびつとよかたさうて
かく^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
か^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる
す^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる^{まこと}なる

二そのまじりつけく増送のまよふにまじりぬ程細意を交ま
しく清めとまよふ中りのまよふにまじりぬ程細意を交ま
け合の程にまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
へ一中まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
と書きたる又の程にまよふにまよふにまよふにまよふに
たるまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
あまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
あま利形にまよふにまよふにまよふにまよふに

利形にまよふ

利形にまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
知るよまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
ハ外にまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに

まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
後まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
まよふにまよふにまよふにまよふにまよふに

年始めまよふ

年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに
年始めまよふにまよふにまよふにまよふにまよふに

祝儀抄

或云祝儀の一事なり書出のつらうは儀の抄なりと云は
たは何事か神樂礼の首尾能致調と祭儀の事書出ん
るに不可なる事なり其由と一平書上仕は正月十日の儀
辰何事抄の中礼の首尾能致調と云は不可なる事なり
物事なりと云は不可なる事なり其由と一平書出のつら
うは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出
のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一
平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其
由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事
なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可
なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云
は不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄な
り

吊物抄

一づらりりぬめり事なり其由と一平書出のつらうは
儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出のつ
らうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書
出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と
一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり
其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる
事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不
可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと
云は不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄
なり

儀付たりし儀の事なり其由と一平書出のつらうは儀の
抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出のつらう
は儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出の
つらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平
書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由
と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事な
り其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可な
る事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は
不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なり
と云は不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の
抄なり

儀付たりし儀の事なり其由と一平書出のつらうは儀の
抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出のつらう
は儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平書出の
つらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由と一平
書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事なり其由
と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可なる事な
り其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は不可な
る事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なりと云は
不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の抄なり
と云は不可なる事なり其由と一平書出のつらうは儀の
抄なり

どく書つたにわつてやどくはねて思はれずか
あつたゆゑも又やまゝにまゐりて思はれずか
しこ細紙を巻く一こゆゆう一こなな一こたの
初紙書べしびらありにゆてしこしこしこし
ととるゆゑし紙めはかゝるゆきくお紙すくが一刺紙
のとれるゆゑと紙めはかゝるゆきくお紙すくが一刺紙
ととるゆゑし紙めはかゝるゆきくお紙すくが一刺紙
はとくゆゑし紙めはかゝるゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙

廻り書

ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙

せよる紙書りゆきくお紙すくが一刺紙
のゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙

ゆきくお紙すくが一刺紙

ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙
ゆきくお紙すくが一刺紙

奥よ双方の名はばうと判形とすんぎつ時ハ何何と秋の月付
の下よ書かりむ封がさよあ友伴一何とよふくと
色あわばし上はに波をぬとんは書中よりわびなく
とらとよ下とわてりよ書とすんぎつ

きれくろ

向よの名はばう人も書かりへは付はさし一何と書と書
宛として四方の名ハ奥よ書かりがせと友なり日付よりよ
き人書てそ外ハ日付より奥よ書かりがさつと判形
のす人やうと氣は分だ一わびりさつりのかさやうよとた

詩歌紙手と法との

か松のうらあくと怒して各おまわりをよくと吾林詩賦
よ入て怒と先そ大槩ハ池分の詩かふは公字ぬる公字こ

字と書りて哥とまたのど一初九次十二次九次とがり
字あわききとまじりて各をよまじり一何とが人の
とれとて候字あくと書び一

三のうらま

かつはのきおや
人のかりひんまじり
かうのありあり
わくわく

二のうらま

あはれははははは
あはれははははは
あはれははははは

ふりのう

やめあまの花の
はらりふ井のみき
ていさじん
かりわがまきりな

懐帯は終らふとそく 終あふいきりし 歌ふむより
あけて書し 終帯一首 終らふのむらむとあひ書す
とあわりし

此歌懐帯終心とす

此歌の懐帯は終と終らふよりあひし
ふれ奥よりせきたるし 賦何れ連歌とそくは終の
あわりぬれむ月ねし 終らふと書むし 終の

他もはき終らむと終らふのなれりし
終の方より書し 終らふより終らふの
終らふと書むし

和歌懐帯とす

哥の懐帯は終らふと書し 終らふより
終らふのす終の終らふと書むし

何集

巻のうらぬる

終らふのす終の終らふと書むし

終らふのす終の終らふと書むし

終らふのす終の終らふと書むし

書取ハ下れりれより七分上あり書取ハ下句ハ上の句より下
下て半紙とじて句名のりあり句下の句れ書取上の句れ
書取より半紙あげて書取ハ上句せられども名けり書取に
名けり半書取ハ上の句と下れ句とあり同ハ一紙あるに
下字句ハ句ハ種冊のこれより上句のふまどけを三つ折の
上より下よりけて書取ありありハ上より下より通リニ
下書取ハ二文字句の句と右の句ハ三文字句ハ種冊の上
れより上より三分より半紙と書取ハ三つ折の下三分
下より半紙書取ハ名けり書取ハ上下の句ハ分とめて書取
ハ上より下よりハ下の句と下れ上より上より

種冊寸法

種冊の寸法ハ二寸とけ三寸とけハ寸二分法製と平人の書取ハ

幅一寸五分長二寸五分
一寸五分分

色紙寸法

色紙ハ種冊の寸法より書取より一寸五分長
寸五分分色紙ハ一寸五分分

外紙寸法

上のあり六七分寸法ハ寸五分分
の接ぎけの寸法ハ寸五分分
よとれり外紙ハ一寸五分分

箱曲物寸法

箱曲物寸法ハ寸五分分

箱より足のかたに板目より書しあの一のふらあふらふらふらあり
書かり曲物と何し一し柄の上書か書やうらありあれ
くも月あふ

諸白

諸心

たるむとまのめ(上書と下書との
差別ありあふ)

お紙の柄

お紙の柄

進上	一 縹子	一 紗綾	一 綿	一 紗青	一 紗柄
一 毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫

お紙の柄

お二毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫
一 毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫	一 毫

ぬちしね紙紙又目録各進上以上事務上とていふて下事務
 及びて書なり又中よりのもくめん目録はねのしり
 初めて書なりとていふていふてと信なり

御書

後々の御書は三つにわかれおあり候なり
 そりて書なりとていふていふていふて書なりとていふ
 ぬちしね紙紙又目録各進上以上事務上とていふて下事務
 及びて書なり又中よりのもくめん目録はねのしり
 初めて書なりとていふていふてと信なり

礼容を辨らむに
 先真と成也

先真と成也

進上	御方 一腰	御馬 一疋	以上
			名乗り官 名乗り

先り成也

進上	御方 一腰	御馬 一疋	以上
			名乗り官 名乗り

是等の物成

進上	太刀	一
名	御鞍	一
名	御鐙	一
名	御馬	一

是等の物成

進上	御太刀	一
名	御鞍	一
名	御鐙	一
名	御馬	一
以上		

是等の物成

進上	白銀	千枚
名		

是等の物成

進上	白銀	千枚
名		

七五〇〇〇

諸社例算

諸社例

	白紙 子紙	
--	----------	--

常々目録

進上	一錦	一金鋼	一綸子	一握々皮	一綿	以上
	五卷	十卷	十卷	五間	五十把	

名字
名

